

市議会 だより



第 219 号

平成30年 8月15日発行

- 決まった主なことから（6月定例会）……………②③
- 一般質問……………④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
- 委員会の活動状況……………⑫
- 議会日誌……………⑬
- 検討会の進捗状況……………⑭
- 平成29年度政務活動費の収支実績……………⑮
- 9月定例会の日程（予定）……………⑯



全国植樹祭 1年前イベント

（維摩池西側芝生広場 5月26日撮影）

一般質問



若杉 たかし 議員

Q パスポートの申請、受取を市役所で行えないか伺う

A 課題が多いと考える

Q 愛知県内どれだけの市町村がパスポート申請、受取に対応しているのか伺う。

A 市民生活部長 県内では、瀬戸市を含め16の自治体に対応している。

Q 県の旅券センターと合わせると24市町村で行えるが、本市で行うにあたっての問題点は何か。

A まず、人的体制の整備、ラ

ンニングコストなどの経費が年間約550万円ほど必要になる。また交付までの所要日数が2日ほど長引く。更に本市で行うとすると、原則、愛知県旅券センターが利用できなくなり、必ずしも市民の利便性向上に繋がらないと考える。

Q 小中学生への自転車交通ルールマナー教育について

A 今後もしっかりと取り組んでいきたい

Q スケアードストレート（恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法）による交通安全教育について伺う。

A 市民生活部長 平成25年から始まったスケアードストレ

ト型の交通安全教室は、小学校8校、中学校3校、高校1校で実施し、今年1校の実施を予定している。このことにより交通安全意識の向上を図る上で高い効果があったと考えている。

Q 更なる今後の取組を伺う。

A 愛知県警による児童館での交通安全教室、夏休み小学生体験型自転車交通安全教室、中学校での愛知県警自転車取締部隊Bフォースによる交通安全教室の実施。今後、自転車交通安全教育に取り組む市民団体OSCNじてんしゃスクールとも連携を図り、より実践的な自転車交通安全教室を実施し、工夫して取り組んでいく。



まつだ まさる 議員

Q インクルーシブ社会の実現に向けた課題について

A 尾張旭市障害者地域自立支援連携会議の活性化や機能向上への取組は必要と認識している

【インクルーシブ（障がい者が排除されることのない包括的な）社会の実現に向けた本市の取組について】

Q 第5期障がい者計画・第5期障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画の推進体制について。

A 健康福祉部長 尾張旭市障害者地域自立支援連携会議を中

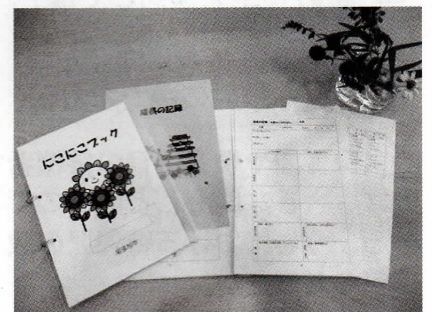
心に、障がいのある人にライフステージに応じた支援を行い、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、計画を推進していく。

Q 各年代間のシームレスな（切れ目のない）連携体制について。

A こども子育て部長 障がいのあるお子さんや発達が気になるお子さんが、入園・入学・進級や、さまざまな支援機関と関わる際には、保護者の了解をいただいた上で、特性や好み、かわり方などを伝えるとともに、お子さんの特性に応じた配慮・支援方法を保護者と支援者が共有するためのツールである個別支援手帳「にこにこブック」を作成し、スムーズに継続した支援を受けられるよう連携に努めている。

A 健康福祉部長 障害者地域

自立支援連携会議の日中活動・就労部会が「福祉事業所説明会と相談会」を開催して、保護者向けに学校卒業後の進路や福祉サービスの利用方法などを説明する取組を行っている。



にこにこブック



「にこにこブック」のPDFデータが見れます